
9. 野川のオアシス作りプロジェクト

野川ほたる村
(東京都小金井市)

I. 活動の背景と目的

国分寺の姿見の池付近を源流とする野川は、下流で多摩川と合流するまで、国分寺崖線に沿って流れている。この野川をほたるが飛び交うような環境づくりをしようとしたのが野川ほたる村だ。

小金井市の武蔵野公園のわきに、野川の水量を調節する二つの（第一、第二）調節池がある。野川ほたる村は、1990年9月に、この第二調整池のU字溝に流れる国分寺崖線の湧水を利用して、池と小川を復活させようと小金井市議会に陳情したのをきっかけとし、近隣の自然保護団体に呼び掛け「野川第一・第二調整池わき水利用懇談会」を発足させた。

1991年2月には、小金井市議会に「第一調整池に池と小川を復活させよう」という陳情を行い、同年9月の市議会で採択された。

1995年7月には、東京都西部公園緑地事務所および小金井市都市整備部と協力して「はけの森懇談会」を持ち、旧前田邸の植生調査を開始した。

1998年8月には、北多摩南部建設事務所に対し、「野川第一調整池へのオアシス作り」に関する要望書を提出した。

一方、都市化の現象に伴い、湧き水を集めて流れる清流「野川」も、今や「大川」と呼ばれた昔の面影は全くなり、ときおりの湧水によってみじめな姿を見せるようになった。そして現在では、野川第一調整池の側溝に流れるささやかな湧き水が私達に小さな希望を与えてくれるにとどまっている。

そこで、せめてこのこのささやかな湧き水を絶やすことなく利用して、少しでも昔の自然を回復してゆく足がかりにしたいとの思いを込め、生き物が豊かに栄えることのできるビオトープ作りを進めたいと発案し、「官民一体の実行委員会」の開催を要望した。

これに平行して、この点についての市民の理解をより深めて行く手段の一つとして「野川オアシス学校」の開校を企画し実行に移した。



ハケ（国分寺崖線）の森と野川調節池（手前）

II. 活動の内容

1. ビオトープ作りの推進

ビオトープ作りの具体化計画を提案するには、先ず現地の実地測量が先決と考えて、1999年5月に東京農工大学に呼び掛け、同大学の大学院生の支援を得て調整池の測量を実

施し、必要なデータを作成した。

このような一連の活動が実を結び、ついに1999年7月18日に第一調整池において、「みんなで作るビオトープ」の会が開催された。

東京都河川部、北多摩南部建設事務所、小金井市、野川ほたる村をはじめとする多くの市民団体などが集まって結成した「野川ビオトープづくり実行委員会」が主催者となり、子供達を交えた多数の市民が集まって調整池の一角に掘った小池に通水する鍬入れ式を行った。

しかし残念ながらこの計画の本格的な推進が東京都の都合で一年間延期となったため、当初助成申請をおこなった活動計画の主体を「野川オアシス学校の設立とその活動」に移行せざるを得ず、急遽助成金の申請内容の一部を修正してご了承頂く結果となった。

2. オアシス学校の開校と観察会等の実施

オアシス学校は、1999年8月1日、稲葉小金井市長をはじめ多数の来賓をむかえ、70名に上る参加者のもとに開校式を挙行了。市長をはじめご来賓各位から熱意あるお励ましのお言葉をいただき式典を終了した。



オアシス学校の開校



観察会

引き続き、野川ほたる村の講師あがての第一回「昆虫」、「植物」、「水生生物」観察会を実施。以後2000年3月までに全7回の観察会と、シンポジウム1回を実施した。

内容を概括すると次のとおりである。

- (a) 開催した観察会：
- | | |
|------|----|
| 昆虫関係 | 3回 |
| 植物関係 | 3回 |
| 水生生物 | 4回 |

(b) シンポジウム：「野川周辺の自然」（パネリスト5名）

(c) 延べ参加人員：300名

前項で述べた通り、オアシス学校は急遽開校をむかえたにもかかわらず、全予定を無事盛会裏に終了できたのは、この事業に参画した関係者の努力は言うに及ばないが、ひとえに立ち上げ期に最も必要な資金をこの助成金で賄えたことにある。

この初年度の経験を土台にして、来年度はますます工夫をこらし、開校当初の目的達成に邁進したいと考えている。

III. 活動の効果及び今後の課題

1. 活動の効果

①ビオトープ作り関連

「野川はたる村」は、有志の集まりである一市民団体であるが、長年にわたるその活動の結果が行政に理解、評価され、様々な形で具体化を見るにいたったことは大変喜ばしい。

ことに第一調整池でのビオトープ作りは、地元における環境改善の大きな目玉であり、市民一同の将来に夢を与えてくれる快挙というべく、その一端に参画できたことを誇りに思う。

今後は「野川ビオトープづくり実行委員会」の主要メンバーとして一層貢献して行きたいと思っている。

②野川オアシス学校関連

8ヶ月間に実施した8回の行事に、延べ300人にも上る多数の参加者を迎えることができたことは、何よりの効果であった。一般市民の皆さんが気軽に参加でき、特に親子が一緒になって、ドングリを拾ったり、トンボやチョウチョを追いかけたり、ザリガニや小魚をつかまえたりする楽しさ。そのような体験を通じて、厳しい自然の中に生きる生き物への愛情と命の大切さを学ばせてやれることは、子供達への最高の贈り物である。



野川での観察会（水が少ない）

2. 今後の課題

①ビオトープ作り関連

「野川ビオトープづくり実行委員会」は、行政機関と一般市民が互いに意見情報等を出し合いながら、一体となってよりよい方向を模索して行く重要な場である。「野川はたる村」はこれまで以上に努力を傾注して、早期完成への推進役を果たしたい。

②野川オアシス学校関連

- ・ 充実した運営を目指すためにカリキュラムの充実につとめ、一人でも参加者を増やすことが出来るよう工夫し努力したい。
- ・ 子供達の参加を引き出すために、学校や、地域団体の子供会や、他の自然観察会との相互協力体制の充実に努力したい。